

## 勉強しながら新たな取り組みを

本年度の入学生入学動機調査で、“自分が思っていたことと違う点”を聞いた回答の中に「スクリーンとプロジェクターで授業が進められること」と回答した生徒がいます。確かに本校では、毎日、どこかで、誰かが、必ず、ICT を利用した授業を行っています。生徒にとってよりわかりやすい授業を実現しようということで、数年前よりこの様な授業が積極的に行われているようです。

教員対象の『遠隔授業等の実現を図る ICT 活用研修』が昨日の放課後行われました。この研修は実際の ICT 機器を操作したり、見学することで遠隔授業等のイメージが持てるようになることを目的としているようです。島根県教育センターと本校の会場を結んで、教育センターの指導主事を講師として遠隔授業が行われました。

4 月から 5 月にかけて新型コロナウイルス感染症拡大により、1 ヶ月を超える臨時休業が行われました。今後同じような事態が発生したときでも生徒の学びを止めないために、全ての教員が遠隔授業を実施できるようになることが求められているようです。私のような年配の教員には大変です。まずことばが分からない！チャット、ドキュメント、アカウント・・・話を聞いているだけで憂鬱になってきます。しかし、生徒のためと思いつつながら本校の教員はこの研修に挑戦していました。

私が教員になりたての頃は、ワープロがでだした頃で、手書きの試験問題が徐々にワープロにかわりだしました。「そんなもんであそんどらんで、仕事せい！」と当時年配の先生から言われたものでした。その後パソコンが登場し、一太郎や花子やファラオやエクセルなどのソフトが次々と世に出され、そのうち Windows が流行だし、せっせと電卓で計算していた成績処理が、表計算というもので行われるようになるなど、その流行や機能について行くのが精一杯だったような気がします。様々な研修に参加し、パソコンの操作を学んだり、今はどうなったのかコボルやベーシックなどの言語を学んだりと教員になって初めて学ぶことが多くあり、このような研修を通して情報処理に関する技能も向上していったのだろうと感じています。

何事も最初はみんな分からない。けど、諦めず、恐れずやってみることでいずれできるようになるのでしょう。以前本校でも教室で ICT 機器を使った授業を進めようとしたときも、同じような困難さがあったかもしれません。それが、今はほとんどの教員が ICT 機器を使って授業ができるようになっていきました。遠隔授業を行う必要がないことが望ましいのかもしれませんが、これからは、備えておくことは必要なのでしょう。

これもまた、日々勉強です。

